

自主防災組織の結成

市は、災害の被害を小さくするため、計画的に河川改修や道路災害防除事業などを進めています。ハード面の整備には限界がありますので、市と皆さんの力を合わせた防災体制を築くことが必要です。

例えば、市内で大きな災害が発生した場合、電話が不通になり防災関係機関への通報が困難になったり、道路や橋、建物が壊れたり、車両が路上に放置されたりして、消防車などの緊急自動車が思うように通行できなくなることが予想されます。

また、同時に多くの火災の発生も考えられることから、消防力の分散や水道管、貯水槽などが壊れ十分な消防活動ができなくなることも考えられます。

このような状況で被害を小さくするためには、地域住民の連帯意識に基づく『自主防災組織』を結成し、市民自ら出火防止や初期消火、被災者の救出・救護などの活動を行うことが必要です。

区分	自主防災組織の活動内容
平	『正しい防災知識の普及』 - 組織の役割分担や活動内容、各家庭での防災対策などの正しい知識を身に付けましょう。
	『地域における危険箇所の把握』 - 過去に災害で被害を受けた場所などを確認して安全に避難しましょう。
	『防災訓練の実施』 - 訓練を行い、万一の際にスムーズに行動できるようにしましょう。
常	『防災資機材の整備』 - 役割に応じた必要な資機材を整備しましょう。自主防災組織が整備する防災資機材の購入整備に対し、補助制度があります。
	『災害時要援護者の把握と救出体制の整備』 - 一人で避難できない方は、自主防災組織で担当者を決めて避難誘導に当たるようにしましょう。
災	『備蓄』 - 各家庭で日ごろから3日間程度の水や食糧の備蓄をしましょう。
	『災害情報の迅速な収集と住民への伝達』 - 的確に行動するため、正しい情報の収集や伝達をしましょう。
	『出火防止と初期消火』 - 被害を大きくする火災、グラッときたらまず消火しましょう。
害	『避難誘導』 - 避難誘導は自主防災組織が中心になり、隣近所声を掛け合いみんなで避難するようにしましょう。
	『被災者の救出・救護』 - 防災資機材を活用し、被災者の救出・救護をしましょう。



初期消火訓練

炊き出し訓練



煙の中の避難訓練

サイレン遠隔吹鳴装置

災害が発生し、または発生する恐れがある場合は、市内39カ所に設置しているサイレン遠隔吹鳴装置から、音声やサイレンで避難の情報などをお知らせします。



サイレン遠隔吹鳴装置

サイレンの種類	サイレン	状況
火災信号	3秒鳴らして2秒休みを6回繰り返す	火災が発生している場所の近隣のサイレンを吹鳴します
津波警報信号		大津波警報が発令されたときにサイレンを吹鳴します
危険信号	5秒鳴らして6秒休みを5回繰り返す	津波警報が発令されたときにサイレンを吹鳴します
水防信号	60秒鳴らして5秒休みを3回繰り返す	避難勧告を発令したときにサイレンを吹鳴します
招集信号	15秒鳴らして6秒休みを4回繰り返す	消防職員・団員を招集するときにサイレンを吹鳴します